

アメリカにおけるセラピューティックレクリエーション専門職及びその養成段階関係者の属性の特徴に関する考察

堀田哲一郎 [鹿児島国際大学]

キーワード：セラピューティックレクリエーション，専門職，調査研究

はじめに

アメリカにおけるセラピューティックレクリエーション専門職（以下「専門職」とする）の特徴に関して、現在では全米セラピューティックレクリエーション公認協議会（National Council for Therapeutic Recreation Certification）のウェブページ（<http://www.nctrcc.org/documents/CTRSPProfile09-FINAL081809.pdf>）において、2009年時点での調査結果の概要を容易に把握することができる¹⁵⁾。しかし、それに到るまで、専門職や養成段階における学生及び大学教授陣等の関係者に関する実態調査を行った報告書が1970年以来多数存在した。発表者は、2010年9月から2011年8月まで、ノースウエストミズーリ州立大学のテリー・ロバートソン博士及びテリー・ロング博士の下で長期国外研修の機会を得た。両博士は、全米セラピューティックレクリエーション協会（NTRS）の機関誌である『セラピューティックレクリエーションジャーナル』の編集長を2008年度から2010年度まで共同で務められており、そこでは古い時期から最新の情報までセラピューティックレクリエーションの研究領域に関して様々な資料提供を受けることができた。両博士から提供を受け、さらにその参考文献から追跡を続け、また当時当大学のウェブページにリンクされていた『セラピューティックレクリエーションジャーナル』のバックナンバーアブストラクトの検索サイト（残念ながら、現在はアクセス不能）を活用し、収集できる限りの文献を収集して、別表のように専門職や学生及び大学教授陣の属性の特徴をまとめた。当然のことながら、実施された調査によって対象者が異なり、回答者数も異なっているため、すべてを共通の基準に基づく追跡調査とみなすわけにはいかないけれども、その時々の回答者の属性の共通点や相違点を指摘することは可能であり、それによって、専門職や学生及び大学教授陣の属性の特徴の傾向と言い換えることをお許し願いたい。

属性として出てくるものは、性別、人種、年齢、学位、職位、年俸、実践地域、経験年数、職場、対象、充足感である。専門職と学生及び大学教授陣とに分け、通観して得られる知見をまとめてみたい。

1. 専門職の属性の特徴

まず専門職に関してまとめてみる。性別については、14件の調査において最低71%が女性で占められており、おおよそどの調査の時点においても女性が多数であることがわかる。

人種については、9件の調査において最低79.5%が白人（コーカサス系）で占められており、第2位の黒人（アフリカ系）は、最高でも4.5%に過ぎないことがわかる。最新の調査でも、白人（コーカサス系）の占める比率が下がらず、もし、多文化主義を推進しようとする取り組みがあったとしても、その成果が十分であるとは言えない。

年齢については、平均年齢を表示した2件の調査においては、30代半ばとその後半であり、最頻年齢を表示した調査においては、2件が20代後半、2件が30代前半、1件が20代となっており、これらに関して共通点や相違点を挙げることは難しい。

学位については、13 件の調査において最低 51.7% が学士で、2004 年以降は 70% 以上のが続き、その保有者の比率が高くなる傾向がみられると言える。修士や博士については、最も高い比率の調査時期が、いずれも最新のものより前のものであり、それぞれの学位保有者の比率が高くなる傾向にあるとは言えない。

職位については、11 件の調査における回答者のうち療法士の占める比率が最低 41.15%、最高 67.3%、8 件の調査における監督者 (supervisor) の占める比率が最低 9%、最高 23%、8 件の調査における管理者 (director/manager/administrator) の占める比率が最低 6%、最高 41.05% であったことがわかる。さらに 3 件の同一調査者による調査結果でのそれぞれの職位における女性比率も含めて比較検討すると、直接サービスに当たる療法士の比率が常に 40% を超えており、残りを監督者と管理者で分け合う形になるが、管理者が監督者とほぼ同率になる場合もあれば、管理者が療法士とほぼ同率になっている場合もあり、加えて、全体の女性比率の高さも反映して、監督者においても管理者においても、女性の占める比率がだんだん高くなっている、管理者がすべて女性という調査結果が出た場合さえみられ、直接サービス部門に女性が集中し、管理的部門は男性が独占するという旧来の概念はすでに崩れています。しかし、監督業務の全体の比率が低いのは、全体の絶対数が少ないので、監督を好む人が少ないので、監督で回答する人が少なかったのか定かではない。オモロウ (1995¹⁸⁾, 2000¹⁹⁾) は、ともに「多くの環境において、管理者及び監督者の機能がきわめてしばしば互換的に活用され」「管理における女性の高い数もまた、養護施設回答者の多数のためであろう。彼らは、1 人のサービスまたは担当部局において女性である傾向がある。加えて、女性は、例え彼らが直接患者サービスを提供していたとしても、管理者として彼ら自身をみなすであろう」と説明しており、自負心の強さも窺える。

年俸については、療法士年俸と監督及び管理者年俸との格差、男女格差、学位格差が存在している。平均年俸以外では、最頻時給も含め、どの層も年を追うごとに増加していることがわかる。

実践地域については、8 件の調査において最も多かったのが五大湖であったときと北東部であったときと同数であり、第 2 位であったのが五大湖であったときが 2 件と北東部であったのが 1 件であるので、五大湖の方が頻度が高いと言える。次いで中部大西洋岸が 2 件、中北部/北西部、太平洋岸、南部が 1 件ずつと分散している。

経験年数については、9 件の調査において最も数の多かった層が 6-10 年であったのが 3 件、4-10 年、5-10 年が 1 件ずつと重複する層の項目がある。1-3 年及び 1-5 年という経験の少ない層が最も多いときもあれば、最新の調査結果では、21 年以上の経験豊富な層が多くなっている。6-10 年が第 2 位であったときが 3 件あり、この層がかなりの定着度を示していると言える。11-15 年、20 年以上という経験度の高い層が出ているものもあれば、1-5 年、3-5 年、4 年未満、5 年以下という経験度の低い層が出ているものもあった。

職場については、10 件の調査において、最も比率の高いのが精神科病院であったものが 7 件、養護施設であったものが 2 件、老人科であったものが 1 件であった。第 2 位であったのが老人科であったときが 4 件、総合医療病院であったときが 3 件、リハビリテーションセンターであったときが 3 件であるのに対して、地域立脚環境の占める比率はいずれも低く、精神科、高齢者、医療の現場での任用が多数を占めている傾向を看取できる。

対象については、前述の職場との関連性が強いものの他、脳外傷/卒中や発達障害の微増傾向を指摘することができる。

充足感については、3件の調査において、非常に充足という回答者が最低37.1%、概ね充足という回答者が最低43.1%、任用変更の希望無しという回答者も最低48.9%と、良い傾向がみられる一方で、任用変更の希望有りという回答者が最低27.1%はおり、必ずしも無視できる数値ではないことに留意しておく必要はある。

2. 学生及び大学教授陣の属性の特徴

ここでは、まずステイン(1970)²³⁾が開始した教育機関を対象とした調査を、その後アンダーソン他(1980²⁾, 1990²⁴⁾, 2000³⁾, 2010⁷⁾)が引き継いで10年毎に実施した4件の縦断的調査結果と、オスチン他(1984⁵⁾, 1998⁶⁾)やコンプトン他(2001)¹¹⁾の調査結果を加えてまとめてみる。ここで、アンダーソン他(1980²⁾, 1990²⁴⁾, 2000³⁾, 2010⁷⁾)の回収件数が変動している理由として、質問紙の発送はプログラムの総件数に対して実施されており、全米で開設されているセラピューティックレクリエーションプログラムの総数自体が不変なものではなく、その都度増減していることによるものであることに留意する必要がある。

それらのうち、5件の調査において、学士、修士、博士すべての段階にわたって、養成段階から女性の比率の多いことがわかる。対象件数の変化にもかかわらず、博士及び修士の修了見込者の女性比率が高まるにつれて、大学教授陣の女性比率も高まる傾向にあると言えよう。

おわりに

以上により、専門職の属性の特徴として、性別では女性、人種では白人(ヨーロッパ系)がそれぞれ多数を占め、年齢では20代から30代にかけてが調査対象者の大半を占め、学位では学士が多く、修士及び博士保有者が増える傾向にあるとは言えず、職位では療法士が多いようで、監督者と互換性のある管理者も同等とみなされている場合もあり、全体に占める女性の比率が高いところから、管理者にも女性の比率が高まっていて、年俸では管理者、性別、学位による格差があり、実践地域では五大湖、北東部に多く、経験年数では6-10年が多い傾向にあり、職場では精神科、高齢者、医療の現場での任用が多く、対象にも関連し、充足感では充足傾向が高く、任用変更無しという者が多いと言える。その養成段階関係者である学生及び大学教授陣の属性にも、性別、人種、学位において同じ傾向が表れている。

参考文献

- 1) Anderson, D. M. & Bedini, L. A. (2002) "Perceptions of Workplace Equity of Therapeutic Recreation Professionals." *Therapeutic Recreation Journal*, 36(3), pp.260-281.
- 2) Anderson, S. C. & Stewart M. W. (1980) "Therapeutic Recreation Education: 1979 survey." *Therapeutic Recreation Journal*, 14(3), pp. 4-10.
- 3) Anderson, S. C., Ashton-Shaeffer, C. & Autry, C. E. (2000) "Therapeutic Recreation Education: 1999 survey." *Therapeutic Recreation Journal*, 34(4), pp. 335-347.
- 4) Ashton-Shaeffer, C., Johnson, D. E., & Bullock, C. C. (2000) "A Survey of the Current Practice of Recreation as a Related Service." *Therapeutic Recreation Journal*, 34(4), pp.323-334.

- 5) Austin, D. R. , et. al. (1984) "A Survey of Therapeutic Recreation Faculty Members and their Colleagues." *Expanding Horizons in Therapeutic Recreation X I* , pp. 66-77.
- 6) Austin, D. , et al. (1998) "Master's Programs in Therapeutic Recreation in the United States." *Global Therapeutic Recreation V* , pp. 189-199.
- 7) Autry, C. E. , Anderson, S. C. & Sklar, S. L. (2010) "Therapeutic Recreation Education: 2009 survey." *Therapeutic Recreation Journal* , 44(3) , pp. 161-181.
- 8) Blair, D. K., & Coyle, C. (2005) "An Examination of Multicultural Competencies of Entry Level Certified Therapeutic Recreation Specialists." *Therapeutic Recreation Journal* , 39(2) , pp.139-157.
- 9) Brasile, F. M. (1992) "Professional Preparation: Reported needs for a profession in transition." *Annual in Therapeutic Recreation* , No. III , pp. 58-71.
- 10) Card, J. A. , et al. (1987) "Job Task Analysis of Therapeutic Recreation Professionals: Implementation for educators." *Journal of Expanding Horizons in Therapeutic Recreation II* . II , pp. 33-41.
- 11) Compton, D. , et al. (2001) "A National Study of Perceptions Related to Therapeutic Recreation Faculty and Culicula." *Expanding Horizons in Therapeutic Recreation X IX* , pp. 49-60.
- 12) Jones, D. B., & Anderson, L. S. (2004) "The Status of Clinical Supervision in Therapeutic Recreation: A national study." *Therapeutic Recreation Journal* , 38(4) , pp.329-347.
- 13) Langsner, S. J. (1993) "Reasons for Participation in Continuing Professional Education: A survey of the NTRS." *Therapeutic Recreation Journal* , 27(4) , pp.262-273.
- 14) Langsner, S. J. (1994) "Deterrents to Participation in Continuing Professional Education: A survey of the NTRS." *Therapeutic Recreation Journal* , 28(3) , pp.147-162.
- 15) National Council for Therapeutic Recreation Certification (2009) *CTRS Profile Brochure* .
- 16) Oltman, P. K. , et. al. (1989) "A National Study of the Profession of Therapeutic Recreation Specialist." *Therapeutic Recreation Journal* , 23(2) , pp. 48-58.
- 17) O'Morrow, G. S. (1991) *Therapeutic Recreation Practitioner Analysis* . National Therapeutic Recreation Society.
- 18) O'Morrow, G. S. (1995) *Therapeutic Recreation Practitioner Analysis* . National Therapeutic Recreation Society.
- 19) O'Morrow, G. S. (2000) *Therapeutic Recreation Practitioner Analysis* . National Therapeutic Recreation Society.
- 21) Riley, B., & Connolly, P. (2007) "A Profile of Certified Therapeutic Recreation Specialist Practitioners." *Therapeutic Recreation Journal* , 41(1) , pp.29-46.
- 22) Skalko, T. K., & Smith, M. M. (1989) "The Status of Therapeutic Recreation in State Personnel Systems: A national survey." *Therapeutic Recreation Journal* , 23(2) , pp.41-47.
- 23) Stein, T. A. (1970) " Therapeutic Recreation Education: 1969 survey. " *Therapeutic Recreation Journal* , 4(2) , pp. 4-7, 25.
- 24) Stewart, M. W. & Anderson, S. C. (1990) "Therapeutic Recreation Education: 1989 survey." *Therapeutic Recreation Journal* , 24(3) , pp. 9-19.